

大阪市役所医師会報

発行 大阪市役所医師会 〒540-0008 大阪市中央区大手前2丁目1-7 大阪赤十字会館6階 (一財)大阪市環境保健協会内 TEL (06) 4792-7070

No.148 2023年(令和5年)11月

巻頭言

大募集！ 大阪市役所医師会 MVP2023、 大阪市医学会賞

大阪市役所医師会会長 細井 雅之
(大阪市立総合医療センター糖尿病内科部長)

大阪市役所医師会では「みんなが輝くダイバーシティな医師会」をめざして活動しております。あらゆる部門での活躍をサポートしていきます。



●今号の
主な内容

巻頭言「大募集！大阪市役所医師会MVP2023、 大阪市医学会賞」	1頁
大阪市役所医師会MVP2022受賞者の声(第2報)	3頁
令和5年度大阪市役所医師会学術集会報告	6頁
学術集会プログラム 優秀演題抄録 MVP2022受賞者表彰 学術集会特別講演「腸内細菌のメタゲノム解析を 基盤とした疾患診断法と治療法の開発」	14頁
レジデント・研修医研究支援採択論文の報告	16頁
令和5年度大阪市役所医師会総会報告	18頁
令和4年度事業報告 令和5年度事業計画	
代議員会議事録(4～9月分)	21頁
大阪市役所医師会代議員名簿	26頁
大阪市役所医師会役員・委員会組織表	27頁
お知らせ「女性医師の会主催講演会」	28頁

● MVP Medical Valuable Person

本年も「いいね制度」として「いいね」と思われる活動をされた先生に、MVP Medical Valuable Person をお贈りしたいと思います。部門としては、研修医部門、専攻医/レジデント/シニアレジデント部門、病院部門スタッフ、行政部門スタッフ（スタッフ部門は数名のチームも可）として、全会員から 구글フォームをつかったスマホやPCからの推薦とします。1会員1名限定推薦です。「論文にならない活躍だけどいいね」と思われる会員を推薦ください。本年度は、特に、「チーム医療」か「後輩の指導」に優れた会員を募集しています。

2024年1月31日までにGoogleフォームで投票
<https://forms.gle/ufpDsSg2ZRUEbJDe6>



● 大阪市医学会賞（副賞10万円）

大阪市医学会で発表されたすぐれた発表チームに授与されます。当医師会も大阪市医学会に共催して資金援助しています。ぜひ、すぐれた論文発表された先生はご応募ください。

● 鈴木衣子賞（副賞100万円）

大阪市医学会に属されており、世界的にすぐれた業績をあげておられる50歳未満のもの（教授は除く）に授与されます。将来の教授候補とも言えます。

● 大阪市役所医師会学術集会 優秀演題賞

毎年8月に学術集会を行い、日頃の研究や、活動内容を発表いただき、会員相互の活動を知る機会にもしています。優秀発表者には表彰と賞金も贈られます。

● レジデント、シニアレジデント、専攻医論文作成支援、学会出張支援

レジデント、研究医を応援するために、医学研鑽のための研究を行い、論文作成や学会出張した場合に支援金を支給する制度を令和3年度より開始しています。

このように、大阪市役所医師会では、若い先生の論文作成費を支援し、大阪市役所医師会学術集会での優秀発表者への優秀演題賞の進呈を行っています。すぐれた論文には大阪市医学会賞、そして鈴木衣子賞の推薦をいたします。また、論文にはならないような地道な活動、奉仕活動、後輩の指導など「いいね」と思われる先生にはMVPをお贈りすることで、みんなが輝ける医師会を目指したいと思います。

大阪市役所医師会 MVP2022 受賞者の声 (第2報)

「大阪市役所医師会いいね制度「MVP2022」を受賞して」



大阪市立総合医療センター
小児脳神経内科 シニアレジデント
山田 直紀

この度はこのような大変名誉な賞を頂戴し誠に光栄に思います。

現在、私は大阪市立総合医療センター小児脳神経内科でシニアレジデントとして勤務しております。小児脳神経内科では急性脳炎・脳症を始めとする小児救急疾患から、難治性てんかん患者の周術期の評価・管理まで幅広い症例を担当させていただいております。

また、学術活動にも力をいれており、年10回程の学会や研究会での発表に加え、論文作成も上級医の指導の下で年に数遍のペースで精力的に取り組ませていただいています。

体力的にはタフな職場ですが、面倒見の良い上級医と一緒に切磋琢磨できるレジデント仲間に囲まれ、充実した日々を過ごせています。頂いた賞に恥じぬよう、これからもよい医療を届けられるように精進してまいります。

大阪市役所医師会 MVP2022 受賞者の声 (第2報)

「大阪市役所医師会いいね制度「MVP2022」を受賞して」



元 大阪市立総合医療センター 眼科専攻医
現在 北野病院勤務
遠谷 寛人

この度はこのような賞を頂戴し、誠に光栄に思います。

2022年は眼科医として大阪市立総合医療センターで働き始めて3年目の年で、外来患者数と執刀手術件数も増え、とても充実し、成長できた1年間でした。

4月から他病院へ異動となり、苦楽を共にした先生やコメディカルの方々との日々を思い出し、たまにホームシックになることもありますが(笑)、大阪市立総合医療センターでの経験を糧に、これからも日々、研鑽を積んでいきたいと思います。

最後に、この賞はいつも優しく、丁寧に御指導して下さった先生やコメディカルの方々のお力添えがあってこそこの賞だと思えます。本当にありがとうございました。

大阪市役所医師会 MVP2022 受賞者の声 (第2報)

「大阪市役所医師会いいね制度「MVP2022」を受賞して」



大阪市立十三市民病院
整形外科医長
林 和憲

この度は、「病院部門MVP 2022」表彰を賜り、誠に光栄に思います。

2022年度、十三市民病院は「コロナ専門病院」として全科での感染症診療を継続し、第6波から第8波を乗り切りました。一方で、一般診療の病床数に大きな制限を受け、風評被害もあり、全外来患者数は激減しておりました。我々整形外科は、地域の先生方との交流を密とすることを心掛けて紹介患者の確保に努めました。脊椎外科は主に私一人で担当しておりますが、幸い脊椎疾患患者が戻りつつあった時期とも重なり、コロナ禍前の2019年度と比較して脊椎手術件数を1.2倍増とすることができました。手術件数の増加は決して一人でなし得ることではなく、整形外科や麻酔科の先生方、手術室や病棟のスタッフ、手術手伝いに来て頂けた先生方の協力あっての実績であり、大変感謝しております。2023年度はもう少し件数を伸ばしたいと考えておりますので引き続き宜しく願いいたします。

学術的には、2020年度に十三市民病院で全国有数の件数を誇った「一般患者に対する電話外来診療」に関連した研究を行い、複数の論文をpublishすることができました。本研究は昨年度で一段落と考えていますが、アンケート回収にご協力頂いた外来スタッフの方に感謝申し上げます。

第60回(令和5年度)

大阪市役所医師会学術集会報告

大阪市役所医師会学術委員長 金本 巨哲

(大阪市立総合医療センター 内分泌内科)



第60回(令和5年度)大阪市役所医師会学術集会は2023年8月26日に大阪市立総合医療センターさくらホールで開催されました。コロナ禍の状況も色々ありますが、対面形式で開催しました。

特別講演は大阪公立大学大学院医学研究科・医学部ゲノム免疫学の植松智先生に「腸内細菌のメタゲノム解析を基盤とした疾患診断法と治療法の開発」のタイトルで御講演賜りました。腸内細菌の重要性については承知しているつもりでしたが、目から鱗が落ちる内容も盛りだく

さんで、粘膜ワクチンのお話なども大変勉強になりました。

一般演題は14演題と非常にたくさんの応募を頂きました(私が市役所医師会にかかわるようになって最も多い演題数かと思います)。どれも素晴らしい発表内容でしたが、総合医療センター 感染症内科 森田諒先生の「COVID-19の再燃と同時期にCD4+T細胞認識からの逃避変異を認めた液性免疫不全者におけるSARS-CoV-2の持続感染例」と大阪市保健所 寺川由美先生の「新型コロナウイルス感染症対応と母子保健指標との関連」が同点で首位となり、優秀演題賞に選出されました。

また、昨年引き続き、大阪市役所医師会 レジデント・研修医研究 論文支援に採択された総合医療センター 消化器内科 北川大貴先生(現 大阪国際がんセンター 消化管内科)に「十二指腸球部の異所性胃粘膜からの発生が示唆されたHigh grade dysplasiaを伴うPyloric gland adenomaの一例」、総合医療センター 呼吸器外科 井口貴文先生に「右肺動脈塞栓症後の膿胸が広範な末梢肺実質の脱落を惹起した一例」のタイトルで論文内容について発表頂きました。

今後も若手の先生方のさらなる奮闘を期待しています。

大阪市役所医師会学術委員長を務めることになり2度目の学術集会でしたが、前回よりは改善した学術集会遂行を目指しましたが、まだまだ至らぬ点があったかと思ひます。内容を総括し、次回以降さらにbrush upしたいと思ひます。

最後に、無事開催できましたのは会員の先生方の御協力の賜物と存じます。加えて、発表頂いた先生方、役割分担頂きました先生方、学術委員の先生方に御礼申し上げます。



優秀演題表彰にて、左から森田諒先生、金本巨哲先生、寺川由美先生

第60回（令和5年度）大阪市役所医師会学術集会プログラム

2023年8月26日 於：大阪市立総合医療センター

開会の辞（14：00）

大阪市役所医師会長、大阪市立総合医療センター 糖尿病内科 細井 雅之

【一般演題1】（14：05－14：50）

座長 大阪市こども青少年局 八木 敬子

(1) 当院における肝炎ウイルス陽性者拾い上げ・アラートの取り組み

大阪市立総合医療センター 肝臓内科、大阪市立総合医療センター 臨床検査部
○中井 隆志、林下 晃士、天野 優雅、川崎 靖子、横田 裕香、横田 重樹、
木岡 清英

(2) 糖尿病透析予防指導外来での予後調査

大阪市立総合医療センター 糖尿病内科
○高橋 尚子、田添 聡司、薬師寺 洋介、青木 映里香、福田 麻由、中村 美之、
玉井 杏奈、生野 淑子、元山 宏華、福本 まりこ、細井 雅之

(3) 経口セマグルチドの効果に関する臨床因子の検討

大阪市立十三市民病院 糖尿病内科
○中野 雅信、元山 宏華、玉井 杏奈、福本 まりこ、日浦 義和

(4) 日本人における先天性高インスリン血症の包括的遺伝子解析

大阪市立総合医療センター 小児代謝・内分泌内科、大阪市立総合医療センター
遺伝子診療部、伊達赤十字病院 第2内科部
○樋口 真司、岩田 康平、渡部 瑤、山田 勇氣、永安 佑衣、橋口 綾乃、
栞谷 沙織、加藤 勝、高橋 透、奥田 徳子、中村 博昭、依藤 亨、森 潤

(5) COVID-19の再燃と同時期にCD4+T細胞認識からの逃避変異を認めた液性免疫不全者におけるSARS-CoV-2の持続感染例

大阪大学微生物病研究所 ウイルス感染制御学、大阪市立総合医療センター 感染症内科、大阪大学免疫学フロンティア研究センター 分子免疫学、大阪大学免疫学フロンティア研究センター ヒト免疫学（単一細胞ゲノミクス）、大阪大学微生物病研究所 附属遺伝情報実験センター 感染症メタゲノム研究分野、大阪大学免疫学フロンティア研究センター 単一細胞免疫学
○森田 諒、瀨瀬 律子、Xiuyuan Lu、佐々木 正大、中山 英美、Yu-chen Liu、
奥崎 大介、元岡 大祐、James Badger Wing、白野 倫徳、山崎 晶、塩田 達雄

【一般演題2】(14:50-15:26)

座長 大阪市保健所 廣川 秀徹

- (6) COVID-19感染症患者の治療後1年時における運動器疼痛と社会生活復帰との関係
大阪市立十三市民病院 整形外科、大阪市立弘済院附属病院
○林 和憲、窪田 穰、前野 考史、坂和 明、榎原 恒之、新谷 康介、青野 勝成、
田中 亨
- (7) 新型コロナウイルス感染症流行時の高齢者施設に対する感染制御支援の効果と今後の対応について
大阪市保健所、大阪市健康局
○國吉 裕子、檜垣 史郎、井村 元気、植田 英也、中山 浩二、吉田 英樹
- (8) 新型コロナウイルス感染症対応と母子保健指標との関連
大阪市保健所、大阪市子ども青少年局、大阪市健康局、西宮すなご医療福祉センター
○寺川 由美、稲田 浩、辻 ひとみ、藤原 真須美、井村 元気、三橋 麻子、
中村 訓子、田端 信忠、八木 敬子、中山 浩二、吉田 英樹
- (9) 集中治療のススメ
大阪市立総合医療センター 麻酔科・ICU
○前島 慶人、中田 一夫、重里 尚、嶋津 和宏

【一般演題3】(15:26-16:11)

座長 大阪市立十三市民病院 重本 達弘

- (10) 80歳以上の高齢者乳癌における治療選択の変化と阻害要因
大阪市立総合医療センター 乳腺外科、大阪市立総合医療センター 腫瘍内科
○中田 景、小川 佳成、菅原 佳帆、亀井 佑梨、渡部 智加、池田 克実、大森 怜於、
赤石 裕子、徳永 伸也
- (11) 左乳房温存術後に対する深吸気息止め照射
大阪市立総合医療センター 放射線腫瘍科
○池田 裕子、天野 公輔、千草 智、島谷 康彦
- (12) 当院におけるMRI超音波画像融合前立腺生検の導入
大阪市立総合医療センター 泌尿器科
○勝部 諒、上川 禎則、南 彰紀、増田 寛雄、木村 薫、西出 峻治、平山 幸良、
西原 千香子、羽阪 友宏、浅井 利大、石井 啓一

- (13) 大脳鎌髄膜種に対する小開頭内視鏡腫瘍摘出術の有用性について
大阪市立総合医療センター 脳神経外科、大阪公立大学 脳神経外科
○大道 如毅、大畑 裕紀、石橋 謙一、佐々木 強、山中 一浩、後藤 剛夫
- (14) 境界域の弁輪面積を有する大動脈弁狭窄症に対する TAVI 施行時の人工弁サイズ
の選択についての検討
大阪市立総合医療センター 循環器内科、大阪市立総合医療センター 心臓血管外科
○岡田 卓也、加島 裕美、吉井 大智、松本 直己、林 雄介、齋藤 聡男、
占野 賢司、仲川 将志、松本 亮、松村 嘉起、阿部 幸雄、成子 隆彦、
角谷 明洋、岸本 憲明、尾藤 康行

【レジデント・研修医研究 論文支援発表】 (16:11-16:35)

- 座長** 大阪市立総合医療センター 山口 利昌
- (1) 十二指腸球部の異所性胃粘膜からの発生が示唆された High grade dysplasia を伴う
Pyloric gland adenoma の一例
大阪市立総合医療センター 消化器内科 北川 大貴
(掲載論文 A case of pyloric gland adenoma with high-grade dysplasia in the
duodenum arising from heterotopic gastric mucosa observed over 5
years. Clin J Gastroenterol. 2023;16:26-31)
- (2) 右肺動脈塞栓症後の膿胸が広範な末梢肺実質の脱落を惹起した一例
大阪市立総合医療センター 呼吸器外科 井口 貴文
(掲載論文 Desquamation of the subpleural lung parenchyma caused by
empyema after pulmonary embolism: A case report :
Respirol Case Rep. 2022;10:e01008)

【特別講演】 (16:55-18:05)

座長 大阪市立総合医療センター 内分泌内科 金本 巨哲

「腸内細菌のメタゲノム解析を基盤とした疾患診断法と治療法の開発」

大阪公立大学大学院医学研究科・医学部ゲノム免疫学 教授 植松 智先生

優秀演題発表 審査委員代表 (18:05)

MVP2022 授賞者表彰 (18:10)

閉会の辞 (18:20)

大阪市役所医師会学術委員長

大阪市立総合医療センター 内分泌内科 金本 巨哲

大阪市役所医師会「いいね制度」 MVP2022受賞者表彰

専攻医/レジデント/シニアレジデント部門

山田 直紀 先生 総合医療センター小児脳神経内科シニアレジデント
遠谷 寛人 先生 総合医療センター眼科専攻医

病院部門スタッフ

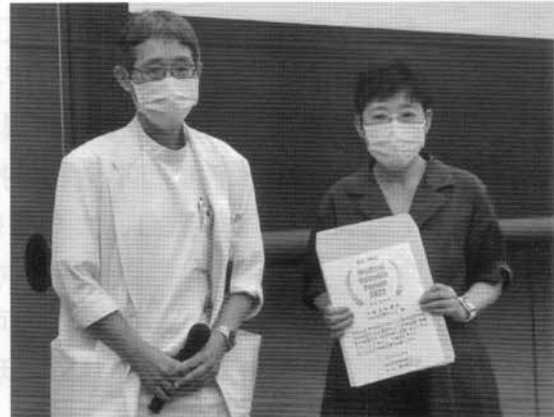
林 和憲 先生 十三市民病院整形外科医長
白野 倫徳 先生 総合医療センター感染症内科部長
清水 貞利 先生 総合医療センター副院長兼医療安全管理部長

行政部門スタッフ

國吉 裕子 先生 保健所北部保健医療監兼北区役所医務主幹、
市立弘済院附属病院整形外科担当部長
津田 侑子 先生 保健所医務副主幹、東成区役所医務副主幹

スタッフチーム部門

大阪市保健所コロナ対策 保健所



COVID-19の再燃と同時期にCD4+T細胞認識からの逃避変異を認めた液性免疫不全者におけるSARS-CoV-2の持続感染例

¹大阪大学微生物病研究所 ウイルス感染制御学

²大阪市立総合医療センター 感染症内科

³大阪大学免疫学フロンティア研究センター 分子免疫学

⁴大阪大学免疫学フロンティア研究センター ヒト免疫学 (単一細胞ゲノミクス)

⁵大阪大学微生物病研究所 附属遺伝情報実験センター 感染症メタゲノム研究分野

⁶大阪大学免疫学フロンティア研究センター 単一細胞免疫学

○森田 諒^{1,2}、瀨瀬 律子¹、Xiuyuan Lu³、佐々木 正大¹、
中山 英美¹、Yu-chen Liu⁴、奥崎 大介⁴、元岡 大祐⁵、
James Badger Wing⁶、白野 倫徳²、山崎 晶³、塩田 達雄¹

【目的】 重症急性呼吸器症候群コロナウイルス 2 (SARS-CoV-2) は免疫不全者において持続感染することがあり、既報では液性免疫不全者の宿主内での中和抗体に対する感受性の低下が示されている。X-linked agammaglobulinemia (XLA) はBruton型チロシンキナーゼの異常によりB細胞が正常に成熟せず無ガンマグロブリン血症になる原発性液性免疫不全症である。XLAを背景疾患として有する25歳の男性が2020年8月に新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に罹患し、2021年3月まで239日間にわたりSARS-CoV-2に持続感染した。2021年3月に症状が悪化し、血液検査では炎症反応が上昇し、CT検査では肺炎像が拡大した。また喀痰中のSARS-CoV-2量は増加した。COVID-19の再燃と判断してレムデシビルを投与したところ、症状、各検査結果とも改善し、喀痰中のSARS-CoV-2量は低下した。本研究は持続感染したSARS-CoV-2の性質を評価することを目的とした。

【方法】 経時的に検出したSARS-CoV-2の遺伝子変異を次世代シーケンサーにより解析し、患者のT細胞を用いて各変異の意義を検証した。増殖能についてはフォーカス形成アッセイにより解析した。

【結果】 症状再燃時に検出したSARS-CoV-2は宿主の細胞性免疫認識に関連する5箇所の変異を獲得し、そのうちORF3aのT32I変異はCD4+T細胞による認識からの逃避に寄与していた。また症状再燃時に検出したSARS-CoV-2はin vitroで増殖能が向上していた。

【考察】 本症例はSARS-CoV-2に対する特異的な液性免疫が存在しない状況でのSARS-CoV-2の感染病態を示す。液性免疫不全下で持続感染したSARS-CoV-2は遺伝子変異によってCD4+T細胞による認識を回避し、また増殖能を高めた。そしてその結果として症状が再燃した可能性が考えられる。当該変異は同様のヒト白血球抗原(HLA)を持つ宿主におけるウイルスクリアランスにも影響を及ぼす可能性がある。患者の状態を改善するのみならず、公衆衛生上の脅威となる変異体の出現を阻止するためにも、免疫不全者におけるSARS-CoV-2の早期の排除は重要である。

新型コロナウイルス感染症対応と母子保健指標との関連

¹大阪市保健所

²大阪市こども青少年局

³大阪市健康局

⁴西宮すなご医療福祉センター

○寺川 由美¹、稲田 浩⁴、辻 ひとみ¹、藤原 真須美¹、
井村 元気¹、三橋 麻子¹、中村 訓子¹、田端 信忠¹、
八木 敬子²、中山 浩二¹、吉田 英樹³

【目的】 2020年に始まった新型コロナウイルス（COVID19）感染症感染拡大とその対応は、医療、保健を含む社会全体に対し大きな影響を及ぼしてきた。今回、COVID19とその対応に関連する社会的変化と、妊娠、出産や母子保健行動との関係について記述疫学的検討を試みた。

【方法】 大阪市における出生数や乳幼児健康診査受診率、その他の母子保健に関わる不妊治療費助成事業、産後ケア事業、専門的家庭訪問支援事業の利用について令和3年度までの経年推移を比較検討した。

【結果】 近年、出生数は毎年減少しているが、2020年9月以降も減少傾向が持続し、特に2021年11月以降には減少が顕著に認められた。また、2020年以降、婚姻数の低下も認めていた。不妊治療費助成事業において、2020年度総助成数は前年度に比較して約14%の減少を認めたが、2021年度は大幅に増加した。産後ケア事業においては、利用人数は2015年度以降増加傾向であり、COVID19流行後の2020年度も前年度から約1.5倍の増加を認めた。また、専門的家庭訪問支援事業では、訪問延べ数は2017年度から減少傾向であったが、2020年度の方が前年度より増加していた。

乳幼児健康診査に関しては、前年度まで受診率は上昇傾向であったが、2020年度は3か月児、1歳6か月児、3歳児共に低下を認めた。2020年度3歳児健診受診率は7年ぶりに90%を下回っていたが、2021年度には全ての乳幼児健康診査受診率について90%以上に回復した。

【結論】 COVID19に関連したメディアや行政、医療等の対応が、出産・子育て世代の非婚化、晩婚化や育児困難感の増加、妊娠の意図の低下に関係し、結果的に出生数の低下に影響を与えた可能性も否定できない。COVID19に対する適切な対応を行いながら、妊娠の意図が減退しないような適切な情報提供、施策、投資が必要と考えられた。COVID19 流行下では、出生後も育児困難感の上昇による母子保健行動の変容が認められるが、それに対してはサービスの充実などの工夫で対応することが可能であると思われた。

特別講演

腸内細菌のメタゲノム解析を 基盤とした疾患診断法と治療法の開発

大阪公立大学大学院医学研究科・医学部ゲノム免疫学 教授
東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターメタゲノム医学 特任教授
植松 智先生

(抄録)

私たちの腸内にはたくさんの細菌が共生しており、100種類以上、約100兆個も存在します。回腸（小腸の末端）から大腸にかけて多種多様な細菌が種類ごとにまとまって腸内に壁面を作ってびっしりと存在していることから、「お花畑」に例えられ、「腸内フローラ（お花畑）」と言われています。

近年、次世代シーケンサーが開発され、腸内細菌叢の解析は、古典的な培養法からゲノム解析に変化しました。それに伴い、感染症、炎症性腸疾患、肥満、糖尿病、そして精神疾患などの様々な疾患において腸内細菌叢の構成異常である dysbiosis が認められることが分かってきました。

dysbiosis では、微生物の多様性の変化や菌交代現象が観察され、その結果、腸内細菌叢が宿主にもたらす有益な効果が損なわれ、ホメオスタシスが崩壊します。さらに、炎症性腸疾患や糖尿病などでは、疾患の発症に直接関わる共生常在菌（pathobiont）の存在も明らかになりました。疾患の新しい制御法として、dysbiosis を是正したり、pathobiont を特異的に制御、排除する方法が求められています。

現在、汎用されている 16S rRNA 解析は、簡便に菌の構成比を属レベルで明らかに出来ませんが、菌の構成比をみるだけでは、腸内細菌叢のどこに異常があり、疾患の発症につながるか、治療ポイントも理解できません。解決法として、私たちの研究室では全ゲノムシーケンスによるメタゲノム解析を実施しています。

高速での解析を可能とする相同検索ソフト GHOST-MP をスーパーコンピュータ上で駆動させ、超高速でメタゲノム解析を行うパイプラインを構築しました。

この超高速パイプラインの概要、それを用いた腸内細菌解析によって、メタゲノム診断を実現しました。そしてそれらのデータを基盤として、病態を予測する AI の開発をしています。

腸内細菌を標的とした介入として、腸内 Pathobiont に対する IgA 誘導粘膜ワクチン療法を開発しました。肥満や糖尿病を促進する *Clostridium ramosum* に対する粘膜ワクチンにより、肥満や糖尿病の発症を遅らせることをマウス実験で実証しました。

一方で、腸内ウイルス叢の解析を紹介し、dysbiosisの是正と pathobiontの特異的排除を目的とした次世代ファージ療法の基盤構築を行いました。これにより、ファージゲノムを応用したデジタル創薬も可能となりました。以上のことから、腸内細菌の遺伝子解析から、患者の病態を診断し、治療につなげる手法が確立しました。



【著者】

Dr. [Name] is a professor at the University of Tokyo, specializing in the study of the human gut microbiome. His research focuses on the role of the gut microbiome in various diseases, including inflammatory bowel disease and colorectal cancer. He has published numerous papers in the field and is a member of several professional organizations. He is also a frequent speaker at international conferences and has received several awards for his research.

十二指腸球部の異所性胃粘膜からの発生が示唆された High grade dysplasia を伴う Pyloric gland adenoma の一例

大阪市立総合医療センター 消化器内科¹ 病理診断科³ 消化器外科⁴

大阪国際がんセンター 消化管内科²

○北川 大貴^{1,2}、山崎 智朗¹、池田 哲也¹、坂田 侑平¹、平田 直人¹、
末包 剛久¹、杉森 聖司¹、石井 真美³、櫻井 克宜⁴、根引 浩子¹

(掲載論文: A case of pyloric gland adenoma with high-grade dysplasia in the duodenum arising from heterotopic gastric mucosa observed over 5 years. Clin J Gastroenterol. 2023;16:26-31)

【症例】

71歳の男性。心窩部痛のためX-5年1月に当科に紹介となった。上部消化管内視鏡検査(EGD)では、十二指腸球部前壁に限局する褪色調の粗造な隆起性病変と周囲に広がる大小不同の顆粒状粘膜を認めた。生検病理組織検査では異所性胃粘膜の所見であり、経過観察となっていた。X-3年9月に心窩部痛のため再度EGDが施行された。十二指腸球部前壁の隆起性病変はやや丈が高くなっていったが、周囲の顆粒状粘膜は変化がなかった。この際の生検病理組織検査でも異所性胃粘膜と診断され、再度経過観察となっていた。その後、X年8月に検診のPET-CT検査で、胃幽門前庭部から十二指腸球部にかけてFDGの異常集積を指摘され、再度当科に紹介となった。EGDでは、十二指腸球部前壁の隆起性病変はさらに丈が高くなり、周囲の顆粒状粘膜は幽門輪から上十二指腸角まで広がっていた。生検病理組織検査では、細胞異型は比較的乏しく、核が基底層側に並んだ小型の管状腺管が密に増生している領域がある一方で、鋸歯状腺管や絨毛状の腺管の増生が目立つ領域や核の腫大や偽重層化が見られる領域も見られた。免疫組織学的所見では、MUC5ACがびまん性に陽性、MUC6は部分的に陽性であり、CDX-2は陰性であった。また、隆起部分の表層部の一部にp53陽性細胞が目立つ領域が見られた。以上より High grade dysplasia を伴う Pyloric gland adenoma (PGA) と診断した。造影CT検査で明らかになりリンパ節転移や遠隔転移はなく、ロボット支援下幽門側胃切除術を施行した。手術標本の病理組織学的診断は、術前の最終生検病理診断と同様であり、腫瘍は粘膜内にとどまり、切除断端と脈管侵襲は共に陰性で、周囲リンパ節への転移も認めなかった。

【考察】

PGAは幽門腺への分化を示す稀な腫瘍性病変であり、85%が胃に発生し、8.9%が十二指腸に発生すると報告されている。異所性胃粘膜が十二指腸のPGAの発生母地であるとする説が有力であるが、その詳細は不明である。本症例は十二指腸の異所性胃粘膜の腫瘍化が示唆された内視鏡像を捉えることができた貴重な症例である。胃型形

質を有する十二指腸腫瘍の診断方法は確立されたものがなく、十二指腸のPGAを早期に診断することは難しいが、本症例では経時的にサイズが増大していたことが診断の一助となった。異所性胃粘膜は十二指腸の非腫瘍性病変のうち74.5%と最も高頻度に見られるため、内視鏡医はさほど注意を払わない病変と思われる。サイズが増大傾向にある十二指腸の異所性胃粘膜をみた時には、腫瘍の可能性も考慮するべきである。

レジデント・研修医研究支援採択論文の報告 (2)

右肺動脈塞栓症後の膿胸が広範な末梢肺実質の脱落を惹起した一例

大阪市立総合医療センター 呼吸器外科

○井口 貴文、水口 真二郎、丁 奎光、中嶋 隆、高濱 誠

(掲載論文: Desquamation of the subpleural lung parenchyma caused by empyema after pulmonary embolism: A case report : Respirol Case Rep. 2022;10:e01008)

症例は73歳男性、腰椎圧迫骨折のためベッド上安静 (PS4)。発熱と炎症反応上昇あり近医より紹介。造影CTで右下葉肺動脈の造影欠損と右下葉に広範な浸潤影および右胸水を認めた。心エコーで三尖弁に疣贅を認め、右心系の感染性心内膜炎および敗血症性肺塞栓症と診断。抗凝固および抗生剤加療で病勢改善なく、1週後に三尖弁形成術および肺動脈塞栓除去術を施行した。右舌区肺動脈以遠の塞栓は残存し下葉切除を考慮したが、気管支動脈・肺静脈は温存されており保存加療を選択した。術後右下葉胸膜直下の浸潤影は残存するも、炎症反応は徐々に軽快した。術後2カ月目に排痰困難による誤嚥性肺炎から右膿胸を併発。胸腔ドレナージのみで感染コントロールできず、第9肋骨切除を伴う開窓術を施行。胸腔内には多量の膿苔を認め、右下葉の表面は広範に融解・壊死しており、開窓術後2週間でS8-9末梢肺が脱落し、無数の細気管支瘻を認めた。発声困難となるほどの気漏のためB8-9に気管支充填術を施行。開窓後半年現在、ガーゼ交換中である。

肺栄養血管は大部分を気管支動脈が担っているが、胸膜直下にあたる呼吸細気管支から肺泡レベルでは、肺動脈経由の毛細血管床から栄養される。肺動脈が途絶しても、代償性に気管支動脈が発達することで虚血を回避しているとされ、肺動脈塞栓症による肺の脱落は報告されていない。本症例では、胸膜への感染波及が加わることで肺動脈の支配領域である胸膜直下の肺実質が脱落したものと思われる。画像経過とともに提示する。

令和5年度大阪市役所医師会 総会議事録

総会

日時 令和5年8月26日（土）13：30～13：50

出席 会員 57人 事務局 2人 計 59人

- 日浦総務委員長が開会の辞を述べる
- 議長選出 上川先生を選出
- 会長挨拶 細井会長
 - ・本年1月に頑張っておられる先生を表彰する「いいね制度」を創設 MVP2022として実施
 - ・大阪市医学会賞、(鈴木衣子賞)へ奮っての応募を依頼
- 令和5年度市役所医師会組織について 事務局より報告
- 会計報告 令和4年度事業報告 事務局より報告
令和4年度決算報告
令和5年度事業案説明
令和5年度予算案説明
- 議長が報告の承認可否を求め、異議なく拍手でもって承認を得る
- 司会が14時よりの学術集会の開始を案内して総会を終了する

令和4年度 事業報告

1. 総務委員会

- 大阪市役所医師会総会
総合医療センターさくらホール 令和4年8月27日開催
- 5大学医師会、府庁医師会との懇談会 令和4年11月24日開催
新専門医制度～若手医師にとって魅力のある制度を目指して～
- 各月 大阪府医師会郡市区等医師会長協議会に参加
- 「いいね制度！」創設 MVP2022実施

2. 学術委員会

- 大阪市役所医師会学術集会開催
総合医療センターさくらホール 令和4年8月27日
演題：12題
特別講演：「医療現場における動機づけ面接の応用」
(大阪公立大学院 発達小児医学 川村 智行 先生)

3. 広報委員会

- 大阪市役所医師会会報誌発行 (145・146号) ○ホームページ更新

4. ダイバーシティ推進男女共同参画委員会

- 女性医師の会補助 ○会報発行 (30・31号) ○説明(歓迎)会 令和4年4月4日
- 女性医師の会総会・特別講演会 令和5年3月3日
「臨床研究を紐解く医療統計学」
大阪公立大学院医学研究科 医療統計学教室 教授 新谷 歩 先生

5. ダイバーシティ推進働き方改革委員会

6. 講演会開催等

- 令和4年
11月7～22日 「市民公開糖尿病ゼミナール」 **Web開催**
共催 大阪市立総合医療センター糖尿病内科
11月11日 「十三市民病院糖尿病フェスタ」
後援 十三市民病院糖尿病内分泌内科
12月1日 「かかりつけ医認知症対応力向上フォローアップ研修」 **Web開催**
後援 大阪市立弘済院附属病院
- 令和5年
1月21日 「かかりつけ医認知症対応力向上フォローアップ研修」 **Web開催**
後援 ほくとクリニック
1月22日 「第13回大阪市認知症セミナー」 **Web開催**
後援 西日本がん研究機構
2月27～3月13日 「かかりつけ医認知症対応力向上フォローアップ研修」 **Web開催**
後援 大阪市福祉局

7. 保健衛生委員会

8. レジデント研修医委員会

- 研究支援を実施する (実績：2名)

9. 大阪市医学会との連携

- 大阪市医学会会長賞・鈴木衣子賞に協賛 ○医学会会費負担

10. すこやかパートナー活動

11. 大阪市救急医療事業団との連携

12. 寄付等

- 日本WHO協会賛助会員

令和5年度 事業計画

1. 総務委員会
 - 大阪市役所医師会総会
 - 大阪府医師会との連携強化
 - 5大学医師会、府庁医師会との連携強化
 - 他大阪市関連医療機関等との連携強化
 - 市民公開講座等への後援他
 - 市役所医師会「いいね制度」
 - 事務局経費
2. 広報委員会
 - 大阪市役所医師会会報誌発行
 - ホームページ更新
3. ダイバーシティ推進働き方改革委員会
 - 勤務条件等検討
4. ダイバーシティ推進男女共同参画委員会
 - 女性医師の会補助
 - 会報作成他
 - 大阪市女性医師ネットワークとの連携強化
5. 学術委員会
 - 大阪市役所医師会学術集会開催
 - 大阪府医師会学術集会参加
6. レジデント・研修医委員会
 - 講演会・研修会補助
 - 研究支援等
7. 論文審査委員会
 - 研究支援等の論文審査
8. 大阪市医学会との連携
 - 大阪市医学賞協賛
 - 会費負担
9. 講演会協力
 - 各学術講演会等後援・協賛
10. 「いいね制度」
 - MVP2023実施
11. すこやかパートナー活動
12. その他
 - 代議員会費
 - 理事会
 - 委託事務費
 - 雑費

大阪市役所医師会 令和5年4月代議員会議事録

と き：令和5年4月25日（火） 午後7時～7時45分

ところ：総合医療センター さくらルーム

出席者：細井 雅之 半羽 宏之 上川 禎則 金本 元勝 齊藤 三佳
村田佳津子 檜垣 史郎 廣川 秀徹 鈴木 真司 出雲谷恭子
日浦 義和 宮保 浩子 山口 利昌 吉田 葉子 金本 巨哲
(15名)
堂免 荘八 山下 直子 (事務局)

委任状提出：

岡田めぐみ 寺川 由美 温井めぐみ 日高 典昭 中田 真一
山上 啓子 天羽 清子 栗原 敏修 森川 貴 (9名)

〈委員会報告〉

・会長報告

3月度郡市区等医師会長協議会内容報告

MVP2022経過報告

・学術委員会

8月26日開催の学術集会について、今年は少し前倒し募集を早めて行う

・医師会主催講演会等での医師会託児サービス利用補助について

女性医師の会の講演会開催を毎年3月に実施しているが、2月に開催で検討中

〈議題〉

1. 令和5年度代議員会開催日程変更について

令和6年1月～3月の会場が予約できなかったため、日程を変更する。

1月24日（水）→23日（火）、2月20日（火）→21日（水）、

3月19日（火）→26日（火）

2. 令和5年度市役所医師会体制について

12月末退職 古塚先生 → 波多野隆治先生

3月末退職 安達先生 → 重本達弘先生

平林先生 → 谷川徹也先生

理事 古塚先生 → 廣川先生

3. 令和4年度決算見込について

大阪市役所医師会 令和5年5月代議員会議事録

と き：令和5年5月24日（水） 午後7時～7時56分

ところ：総合医療センター さくらルーム

出席者：細井 雅之 上川 禎則 齊藤 三佳 藤丸 李可 檜垣 史郎
天羽 清子 藤野 光洋 山口 利昌 宮保 浩子 山上 啓子
森川 貴 吉田 葉子 鈴木 真司 村田佳津子 日高 典昭
栗原 敏修 日浦 義和 谷川 徹也 出雲谷恭子 駄賀 晴子
金本 巨哲 八木 敬子（22名）
堂免 荘八 山下 直子（事務局）

委任状提出：

喜多村祐里 羽多野隆治 寺川 由美 中井 隆志 半羽 宏之
中田 真一 廣川 秀徹 根引 浩子（8名）

〈委員会報告〉

- ・会長報告 4月度郡市区等医師会長協議会内容
- ・広報委員会から
会報（第147号）を5月30日か31日に各所属に到着するよう手配している

〈議題〉

1. 第60回学術集会について
 - ・昨年のスケジュールでは準備に時間がなかったため、1か月早めて一般演題募集を実施していきたい。最終的には2週間程度余裕となる ➡ 了承
 - ・一般演題募集要項 MVP制度の表記を追加。要項の欄を整理し分りやすくした
2. 大阪市役所医師会MVP2023について
 - ・MVP2022の経験から修正した案を提案。修正部分に下線をした
 - ・グループ（チーム）には表彰だけとし、会報への投稿なし

大阪市役所医師会 令和5年6月代議員会議事録

と き：令和5年6月27日（火） 午後7時～7時55分

ところ：総合医療センター さくらルーム

出席者：細井 雅之 根引 浩子 上川 禎則 齊藤 三佳 中井 隆志
出雲谷恭子 天羽 清子 宮保 浩子 藤丸 李可 森川 貴
駄賀 晴子 村田佳津子 檜垣 史郎 清水 貞利 廣川 秀徹
日浦 義和 山口 利昌 吉田 葉子 金本 巨哲（19名）
堂免 荘八 山下 直子（事務局）

委任状提出：

八木 敬子 温井めぐみ 岡田めぐみ 寺川 由美 半羽 宏之
喜多村祐里 中田 真一 日高 典昭 鈴木 真司 山上 啓子
谷川 徹也（11名）

〈委員会報告〉

- ・会長報告 6月度郡市区等医師会長協議会内容報告
MVP2022で受賞のうち3人の先生から会報No.147に掲載

〈議題〉

1. 第60回学術集会について
 - ・ 6月30日締め切りで一般演題募集中
2. レジデント・研修医研究支援規則細則の一部改正について
 - ・ 昨年11月代議員会での審議内容に基づき、規則細則の一部改正を承認
3. 大阪市役所医師会MVP2023について
 - ・ 5月代議員会の意見を踏まえ提示
 - ・ 7月頃には会員全員に呼びかけ、年末までを応募期間としたいと考えている
 - ・ 3年連続受賞したら殿堂入り

大阪市役所医師会 令和5年7月代議員会議事録

と き：令和5年7月26日（水）午後7時～7時40分

ところ：総合医療センター さくらルーム

出席者：細井 雅之 根引 浩子 上川 禎則 八木 敬子 鈴木 真司
村田佳津子 山口 利昌 日浦 義和 廣川 秀徹 金本 巨哲
森川 貴 天羽 清子 吉田 葉子 栗原 敏修 宮保 浩子
中井 隆志 山上 啓子 清水 貞利 藤丸 李可 温井めぐみ
羽多野隆治 駄賀 晴子 金本 元勝（23名）
堂免 荘八 山下 直子（事務局）

委任状提出：

半羽 宏之 喜多村祐里 齊藤 三佳 岡田めぐみ 檜垣 史郎
寺川 由美 中田 真一 日高 典昭 谷川 徹也 出雲谷恭子
（10名）

〈委員会報告〉

・会長報告

大阪府医師会勤務医部会が50周年を迎えた。7月22日式典に上川副会長出席
大阪市医学会 学会賞・鈴木衣子賞への応募依頼

〈議題〉

1. 第60回学術集会について

- ・一般演題は14題の応募と応募数多いため、口演時間7分、討論時間2分とした
- ・府医師会生涯研修システム登録方法の今年4月から変更について、学術集会の内容確定時期の前倒しを要検討
- ・研修医の出席の件
- ・今後の抄録集の印刷について
市役所医師会、病院のHPに掲載し、各自で出力を検討（印刷にかかる時間・経費軽減のため）

2. MVP2022授賞者表彰状（案）について

- ・会長からの表彰状（案）を承認

3. MVP2023について

- ・6月の代議員会の意見を踏まえ、案を提示
- ・投票は今年中とし集計を1月。1月末までに決定したい

4. その他

- ・8月の代議員会は、検討議題がない場合は開催中止

大阪市役所医師会 令和5年9月代議員会議事録

と き：令和5年9月27日（水） 午後7時～7時35分

ところ：総合医療センター さくらルーム

出席者：細井 雅之 根引 浩子 上川 禎則 寺川 由美 檜垣 史郎
藤野 光洋 羽多野隆治 温井めぐみ 廣川 秀徹 中井 隆志
天羽 清子 藤丸 李可 金本 元勝 出雲谷恭子 日浦 義和
村田佳津子 鈴木 真司 山上 啓子 栗原 敏修 山口 利昌
吉田 葉子 金本 巨哲（22名）
堂免 荘八 山下 直子（事務局）

委任状提出：

齊藤 三佳 駄賀 晴子 清水 貞利 岡田めぐみ 中田 真一
谷川 徹也 半羽 宏之 宮保 浩子（8名）

〈委員会報告〉

- ・会長報告 9月度郡市区等医師会長協議会の内容報告
- ・広報委員会
会報（第148号）を11月に発行予定。原稿提出は10月末で依頼
- ・学術委員会

総会、学術集会結果

8月26日開催 参加者61名

一般演題 14題あり、今年度は、優秀演題は2名の表彰となった
保健所の寺川先生と総合医療センターの森田先生

〈議題〉

1. 次年度総会、学術集会について
 - ・来年の学術集会開催は会場都合により8月17日になる
 - ・府医師会の生涯研修登録のため一般演題募集日程を早める必要がある
2. 市役所医師会後援等依頼について
 - ・かかりつけ医認知症対応力向上フォローアップ研修（北斗会） 後援名義
 - ・かかりつけ医認知症対応力向上フォローアップ研修（弘済院） 後援名義
 - ・市民公開糖尿病ゼミナール（総合医療センター） 共催支援
3. MVP2023について
 - ・7月から投票は24年1月末とし集計、2月末までに決定とした
4. 来春の女性医師の会講演会に係る講師謝礼について
 - ・来年2月16日開催を予定
 - ・現行、講演会支出基準及内規改正案を来月提案する

大阪府医師会代議員一覧（ブロック別）

（令和5年4月25日現在）

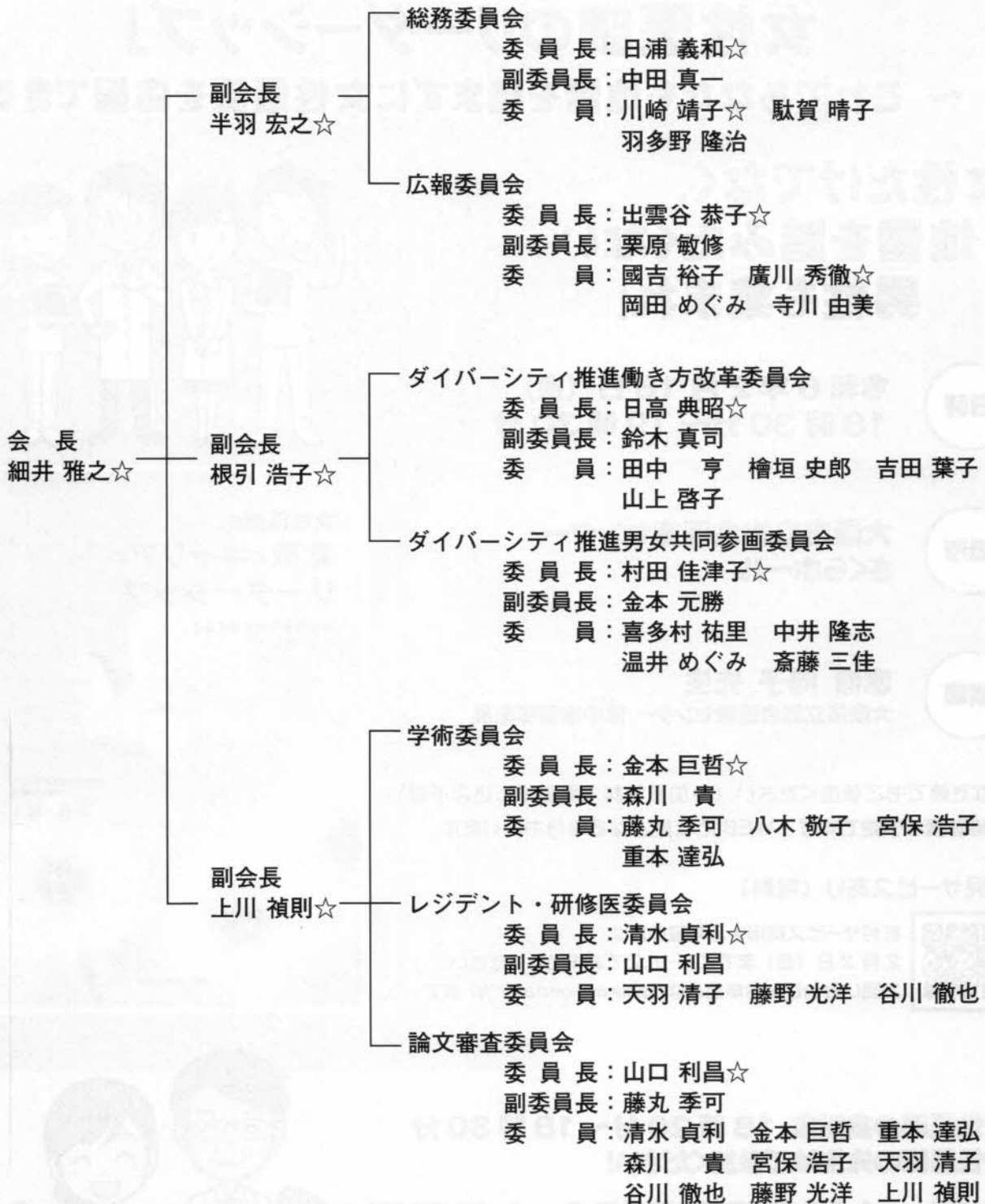
ブロック名	代議員氏名
総合医療センター	金本 巨哲 川崎 靖子 清水 貞利 上川 禎則 村田佳津子 根引 浩子 羽多野隆治 細井 雅之 駄賀 晴子 山口 利昌 森川 貴 温井めぐみ 藤丸 季可 藤野 光洋 中井 隆志 宮保 浩子 日高 典昭 天羽 清子 山上 啓子 吉田 葉子
十三市民病院	日浦 義和 中田 真一 重本 達弘 谷川 徹也 斎藤 三佳
住之江診療所	（欠員）
健康局	岡田めぐみ
保健所等	半羽 宏之 廣川 秀徹 國吉 裕子 檜垣 史郎 寺川 由美
こころの健康センター	喜多村祐里
福祉局	（欠員）
心身障がい者リハビリテーションセンター	鈴木 真司
弘済院附属病院	金本 元勝 田中 亨
総務局 人事室	出雲谷恭子
こども青少年局 + こども相談センター	八木 敬子
教育委員会	栗原 敏修

大阪市役所医師会役員・委員会組織表

議長：総会時に指名

☆は理事

監査委員：成子 隆彦 市場 博幸



令和5年度 大阪市役所医師会 女性医師の会主催
特別講演会

「無意識のジェンダーバイアスと
女性医師のリーダーシップ」

～ これであなただも地雷を踏まずに女性医師を応援できる!

女性だけでなく、
地雷を踏みたくない
男性も集まれ!



日時

令和6年2月16日(金)
18時30分～19時30分

場所

大阪市立総合医療センター
さくらホール

講師

赤嶺 陽子 先生
大阪市立総合医療センター 集中治療部医長

どなた様でもご参加ください(参加費無料・事前申し込み不要)
直招聴講の予定ですが、WEBに変更となる場合もあります

託児サービスあり(無料)



託児サービス利用をご希望の方は
2月2日(金)までにメールにてお申込みください
お問い合わせ・お申込みは ishikai@oepa.or.jp まで

女性医師の
意欲とキャリアと
リーダーシップ

自分自身を乗り越えようと、
もっと楽しい



大阪市立総合医療センター
小児集中治療部
赤嶺 陽子

AIC スタジオ出版

女性医師の会総会 18時20分～18時30分
女性医師の先生はご参加ください!

主催：大阪市役所医師会 女性医師の会

